

# ナルナル的 菌活書評

## 【菌類マンガだったナウシカ】

まさかのまさか、ナルナル的活菌書評で「風の谷のナウシカ」を紹介するなど夢にも思っていませんでした。たまたま読んだら菌類マンガだと知りご紹介したくなった次第です。

漫画は、月刊『アニメージュ』昭和 57(1982)年 2 月号より連載を開始。今から 40 年以上も前の事です。

漫画の中では、多数のキノコや菌類、粘菌(変形菌)も登場しますが、粘菌など誰も知らない時代ではないでしょうか。



私も 20 代半ばで菌類について発酵食品には多少の知識があるのみでした。

『巨大産業文明滅亡後 1000 年、人類はわずかに残された居住可能な土地に点在していた。』

「風の谷」の族長の娘ナウシカは、世界を再生すべく様々な試練に立ち向かい、ついには世界の真実へとたどりついて行く。』(宣材引用)

日本を代表する有名な宮崎アニメです。知らない人はいないでしょう。全 7 巻のうち、アニメになったのは最初の 2 巻分でこの後、地表を飲み込む巨大化した粘菌が登場します。

この漫画が書かれた昭和 57 年に粘菌の事を知る人は、今より遥かに少なかったと思われるのに、すでに漫画のストーリーの中に組み込むという先進性を宮崎駿氏は行っていたのです。

おそらく日本初の本格的な粘菌漫画です。素晴らしいですね。それだけでも書評として紹介する価値があると言うものです。

この漫画を読んでいて、今、自分が考えている事との関係性があることに気がついたのです。前回〔ナルナル的菌活書評 12 号 樹木が地球を守っている〕

<http://blog.livedoor.jp/agrikin/archives/22855>

[06.html](http://blog.livedoor.jp/agrikin/archives/22855) で、「ホロビオント(holobiont)」を紹介しましたが、「風の谷のナウシカ」にこの思想が見られると気がつきました。この漫画が出来た当時は、ジェームズ・ラブロック博士の地球ガイア理論が公表されていましたが宮崎氏は知っていたのか。この理論は、地球が生命を持った生命体だとする理論で今はあまり評価されていません。

しかし、漫画のテーマであるだろう異生物種間での表土回復の連携プレーを見てみると、「ホロビオント(holobiont)」に近いと思われるのです。多種の生物が連携共生しあい、まるで 1 つの生命体の様にふるまう姿です。我儘な人間が邪魔をしなれば……。

	低い	⇄	高い
難易度	★	☆	☆
活菌度	★	★	★
面白さ	★	★	★
新規性	★	★	★

間が邪魔をしなれば……。

粘菌、キノコ、菌類のファンのみなさん、もちろん宮崎駿ファンの皆さん。このセットは買いです。

書名	風の谷のナウシカ 全 7 巻箱入りセット「トルメキア戦役バージョン」コミック
著者	宮崎 駿
出版社	徳間書店
発行日	2003/10/31
価格	4367 円(税込み)

